

第7回電解水セミナー

日本電解水協会

電解水の多彩な効能紹介

日本電解水協会（TEL 03-3896-1825）主催の「第7回電解水セミナー」が11月20日、東京都中央区のTRP・東京駅八重洲カンファレンスセンターで開催された。

電解水とは塩化ナトリウムや塩化カリウム、希塩酸などの電解質を水に添加し、電気分解することによって得られる水溶液の総称である。電解質や電気分解の方法によっては飲用に適する電解水も生成できる。

倉橋准教授



防除資材「電

解次亜塩素酸水」に指定されている。同協会は、この電解水の普及に積極的であり、同セミナーもその一環である。

酸性電解水は食品分野では「次亜塩素酸水」、医療分野では「強酸性電解水」の名称で厚労省から認可・指定を受けており、さらに農業分野では農水省・環境省から特定

今回の基調講演には東京大学生物生産工学研究センター特任准教授の倉橋みどり氏が、「『次亜塩素酸ソーダ』及び『次亜塩素酸ソーダと酸を混合した殺菌剤』と『電解水』の違い」をテーマに登壇した。

次亜塩素酸ソーダにおける発ガン性物質である臭素酸や塩素酸の問題、混合次亜水とクロロホルムや塩の問題を実験データを示して指摘。これに対し、電解水は殺菌力が強いにもかかわらず、副生成物のリスクがなく、環境汚染、風味異常などの問題もクリアする安全性が高く利用範囲の広い殺菌剤であることを強調した。

このほか、医療、工業、農業各分野の専門家が電解水の具体的活用事例などを発表し、参加者は熱心に耳を傾けた。